横浜市立　南　高等学校附属中学校　評価報告書　（　令和　5　～　7　年度　）

様式1

令和　5　年度

取組分野		取組目標	自己評価	総括
重点取組項目	「総合的な学習の時間」の取組の推進	○総合的な学習の時間"EGG"を教育課程の軸として探究活動に取り組み、異なる文化や背景、価値観をもつ人たちとも協働して、新たな価値を創造できる人材を育成する。 ○学校評価アンケート「総合的な学習の時間では、主体的に考え、行動し、課題解決できるようになった」と答える生徒が90%以上。	○総合的な学習"EGG"の時間を、EGGゼミ、EGG講座、EGG体験の3本柱を立てて、3年間を見通した各学年の年間計画に沿って探究的な学習に取り組むことができた。個人やさまざまなグループ単位で、交流や対話を重ねることを通して、自ら設定した課題について視野を広げたり考えを深めたりすることができた。	A
	魅力ある教育の推進	○多様な学校行事や生徒会行事等を通して、生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばすことで、自主自立の精神と、豊かな人間性を育む。	○中高合同の学校行事である合唱コンクールや南高祭舞台の部・展示の部においては、各種委員会が主体的に企画運営を行った。また、各学級の委員生徒が各学級の展示・発表についても主導し、それに応えることによって生徒一人ひとりの力を発揮することができた。 ○バラアスリート講演会や、関連職員の講演会等、実際に社会で活躍する方からお話を聞くことによって、生徒それぞれのキャリア形成のための一助となった。	A
	グローバル教育の推進	○英語集中研修、イングリッシュキャンプ、研修旅行などにおいて、英語でのコミュニケーションを集中的に行うことで、国際社会で活用できる語学力の育成を目指す。 ○さまざまな活動における協働的な学びを通して、これからの社会で求められるコミュニケーション能力を身に付け、国際社会で活躍できるグローバル人材の育成を目指す。	○3学年ともEGG体験のひとつとして夏季休業期間に英語集中研修を計画し、多国籍の講師の方々と一緒に英語を使ったコミュニケーションを楽しんだり、積極的にコミュニケーションをとるように設計したりすることができた。 ○1年生では、PAAやグループエンカウンター研修などを通して、新しい環境の中でよりよい人間関係構築の基本的な考え方を学ぶことができた。	A
人材育成の取組目標		○「思考力・判断力・表現力等」の育成に向けて、全教員が主体的に校内授業研修会や公開授業に参加し、教育期間等からの助言を受け、授業力の向上を図る。経験年数の少ない教員は学期に1回以上研究授業を実施し授業力を高める。 ○横浜市人材育成指標に基づき、市教育委員会が実施する研修と連動させながらキャリアステージに応じた教師力の向上を図る。 ○教育課程委員会及び研修委員会を中心に、学校全体で取り組むOJTの推進体制を確立する。	○評価指標17「校内授業研修会や公開授業、授業参観等を通した授業改善が常に行われている。」に対して、教職員の91.1%が肯定的な回答をしている。複数の教科で設定した公開授業研究会や校内での授業実践、日々の情報交換などを通して、授業力の向上に向け取り組むことができた。本校教育期間からの指導・助言を受ける機会を積極的に活用している。	A
中期学校経営方針における13の取組分野	教育目標等の設定・実施	○保護者に向けての説明や、教育目標の意味を生徒に考えさせる活動等を通して、学校教育目標の周知を図る。 ○学校教育目標に基づいて各学年目標を設定し、具現化を図る。	○評価指標17「学校の…保護者・生徒に教育目標や教育活動の取り組みについて理解されている」について教職員の85%以上が肯定的回答をしている。また評価指標10「自分（生徒）は学校の教育目標やそれを達成するための取組を理解している。」について生徒は80%以上、保護者の70%以上が肯定的回答をしている。生徒・保護者の更なる満足度の向上を図るべく、今後も学校目標の実現に向け教職員全体で取り組む必要がある。	B
	組織運営（働き方改革）教職員研修	○組織的・計画的に取り組めるような校内体制の充実に取り組む。 ○経験の浅い教職員を中心に校内研究授業を職員全員で実施し、指導力の向上を図る。	○評価指標18「中学校と高等学校が連携し教職員が円滑かつ効率的に学校運営に参画している。」に対しての教職員の肯定的回答は59.5%にとどまっている。中高一貫教育校として諸活動を充実したものにしていくために、教職員の意思疎通を今後も図っていく必要がある。	B
	教育課程	○総合的な学習の時間"EGG"全体計画を策定し、生徒の主体的な学習を実現する。 ○国語・数学・英語は週5時間、また、土曜日を活用して、週33時間授業を実施する。 ○学習指導要領の趣旨を踏まえ、6年間で身に付ける資質・能力を共有し、指導と評価の改善を図る。	○中高一貫教育校として、6年間の確となる総合的な学習の時間"EGG"で「世界を幸せにする第一歩」という大目標から考えた生徒の課題探究能力や課題解決能力の育成を図るためのサポートを行った。 ○国語・数学・英語を週5時間行い、さらなる探究を目指した。 ○6年間の学習を計画的かつ継続的に行うため、研究授業や研究協議会を中高合同で行い、話し合いを行ってきた。さらなる改善を目指していく。	B
	教科指導	○学習指導要領の趣旨を踏まえ、特に学習評価の在り方についての理解を各教員が深め、指導と評価の一体化をさらに推進する。 ○各種テストの結果等から生徒の学習状況を把握し、授業改善を行う。 ○英語や数学等の補修を実施し、個々の生徒に対するきめ細かい指導の機会を設ける。	○各業務に関する研修会や校内授業研修会、授業参観等を通して授業改善を行ってきた。今後もそれぞれの教科内また、教科を越えた研究を続けていく予定である。 ○授業力の向上による生徒の一層の学習意欲の喚起を促し、望ましい学習習慣を定着させるとともに、資質・能力の育成により一層力を入れていく。 ○英語や数学等の補習を設定し、きめ細かい指導の機会を設け、更なる生徒の基礎力定着を図る。	A
	特別活動部活動	○学級指導や行事指導を通して、生徒の責任感や自主性等を育成する。 ○生徒会行事や部活動を通して、生徒の望ましい人間関係を育成する。	○学級指導や行事指導、各学級での係活動を通して、集団の中でリーダーシップを発揮する能力や責任感・自主性等能力の育成を行うことができた。 ○生徒会・各種委員会や部活動を通して、周囲と協力しながら課題と向き合い望ましい人間関係を育成することができた。	A
	生徒指導 教育相談（特別支援）	○礼儀指導や規範意識を育成する指導に取り組む。 ○生徒の円滑な人間関係づくりを支援し、いじめの防止に取り組む。 ○教育相談や各種調査を実施し、全職員による生徒理解を推進する。	○挨拶については、学級担任・教科担任・部活動顧問などそれぞれの立場から、子どもたちに声をかけ続けていくことが大切であり、また、教員自らが積極的な挨拶を実践していくことが、子どもたちにとってもお手本になっている。教育相談やアンケートなどを効果的に活用することで、生徒理解が深まり、必要な支援を積極的に行うことができる。	B
	キャリア教育 進路指導	○キャリア教育全体計画を策定し、"EGG"等で社会の第一線で働く方々の講演や職場体験を行う。 ○特活指導内のキャリア教育の内容を系統立てて計画する。	○3学年とも広く多様な専門分野の講師の方や卒業生をお招きしたEGG必修講座を複数計画し、さまざまな課題について話を聞くことを通して、新たな視点を持ったり、視野を広げたり、考えを深めたりすることができた。 ○1年生では、夏季休業期間中に選択EGG講座を計画し、各自希望する講座を選択受講して、自分の興味を広げることができた。	A
	保健指導 環境美化	○食育全体計画・学校保健計画・学校安全計画を策定し、食育・保健指導・安全指導等を実施する。	○日々の健康観察と健康相談では、生徒自らが考えられるよう対応と指導を行った。感染症法の改正を受け、感染症対策は継続しつつ、生徒が主体となり、校内美化について制限を減らすことができた。また、学校保健委員会は中高合同開催し、生徒がすすんで健康について考えるきっかけとなった。生徒がより健康で安全に過ごせるようﾆｯｸ部講師を招いた講座を実施した。生徒の実情に合わせた講座を実施していきたい。	B
	学校経理 施設・設備 情報の管理	○学校予算の効率的かつ適切な執行については、高等学校と連携し、学校事務職員だけではなく教職員全体で意識の向上を図る。 ○「横浜市における GIGAスクール構想」に基づき、1人1台端末の活用等、教育のICT化をさらに推進する。 ○学校情報の適切な管理、誤記載のない成績文書の作成を推進する。	・学校予算の効率的かつ適切な執行については、高等学校と連携し、学校事務職員だけでなく教職員全体で意識の向上を図ることができた。 ・学校情報の適切な管理については「横浜市立学校における個人情報の取扱いについて」に基づき、適切に管理した。 また、特定個人情報については「横浜市における個人情報の適正な管理のための措置に関する要綱」に基づき管理を行うことができた。	B
	保護者・地域等との連携協力	○PTA・同窓会・後援会との協働による教育支援体制の強化を図る。 ○授業参観や懇談会等を通して、保護者との連携協力を推進する。 ○体育祭や文化祭で、本校の教育活動を広く公開する。	○アンケート項目13で「そう思う」が83%と他項目と比較しても高い評価を得ることができた。 ○PTAによるクラス懇親会や中高グループ懇談会を実施することができた。 ○コロナ禍があけて、体育祭や文化祭、合唱コンクールなどで保護者の方に参観していただくことができた。 ○東永谷中学校ブロックの学家地連総会に参加し、地域の方と交流ができた。	B
	危機管理	○学校防災・防犯プランをもとに、緊急物資の備蓄や防災指導・防犯指導等を実施する。また、緊急メール配信システムを適切に運用する。 ○新型コロナウイルス等、感染症にかかる適切な対応を行う。	○これまでの避難経路を見直し、その後各学級において改めて避難経路の徹底を図った。また、9月には大規模地震発生時の初期対応について、各学級で確認を行った。 ○防災用の備品の整理や補充を確実に行い、発災時の物品不足の予防に努めなければならない。 ○生徒の防災意識を高めるための手立てを講じる必要がある。	C
	学校に関する情報公開	○学校ホームページの適切な運用等、学校広報活動のさらなる充実を図る。 ○学校評価を活用した学校情報の公開を推進する。	○「学校だより」によって、個人情報に留意しながら学年ごとの情報を発信している。「附属中日記」も、職員の過度な負担にならない程度に充実させるとさらによいと思われる。 ○学校評価を活用した学校情報の公開を継続的に推進していく。	B
	いじめへの対応	○いじめ防止に関わる研修を定期的に実施し、教職員の共通理解を図り、適切な対応方法について研修を深める。 ○1年生全員と校長代理面接を行い、一人ひとりが受け入れられていると実感できる環境を作り、いじめを許さない意識の向上を図る。 ○生徒に定期的なアンケートを行い、未然防止と早期発見に努める。	R5中学自己評価-17 ○年5回職員によるいじめ防止研修を行い、教育委員会によるいじめ防止研修も受講した。 ○いじめ防止対策委員会を1回以上開催し、組織的な対応を行った。 ○生活委員会生徒によるいじめ防止の取り組みを各学年集会で発表した。 ○保護者「わからない」の回答が8.4%あるので、取り組みの周知が課題である。	A
学校関係者評価書提言		重点取組項目である、「『総合的な学習・探究の時間』の取組の推進」、「魅力ある教育の推進」、「グローバル教育の推進」に関する総括的評価全てにおいて、高いものが認められる。校長先生はじめ教職員の皆様のご努力と日常的な教育活動の成果が具現化されている。 横浜市立南高等学校と同附属中学校が、さらによりよくなるには、三つの重点取組項目の内、「『総合的な学習・探究の時間』の取組の推進」について、中高6カ年を見通した生徒一人一人の「探究」の資質・能力の育成、中高一貫でのカリキュラム・マネジメントの充実を図ることが期待される。また、新型コロナウィルスの影響で、国内研修は行われたものの海外研修が行われなかった状況もあり、中高一貫校として、これまでに培われてきた中高6カ年を見通したグローバル教育の一層の推進」を図ることも、これまで以上に重要となる。　学校を取り巻く社会状況の変化の中で、中高一貫教育の特徴を生かし、さらなる充実が期待される。		
学校関係者評価書提言に対する考え		令和5年度の重点取組項目である、「『総合的な探究の時間』の取組の推進」「魅力ある高校教育の推進」「グローバル教育の推進」の総括において、それぞれ「A」となったことについて、教職員の日々の取組を評価していただいた。「『総合的な探究の時間』の取組の推進」への取組を、令和6年度に向けてさらに深化させるため、提言にあるように「中高一貫でのカリキュラム・マネジメントの充実を図るため、TRY＆ACTを軸とした探究活動において、中高の連携を意識しながら取組んでいきたい。　現在、学校が企画する海外研修旅行は中断しているが、コロナ後の「グローバル教育の推進」に向け、旅行会社が企画する、希望者による「カナダ国際交流プログラム」を用意した。令和6年3月下旬に行われるこのプログラムには多くの生徒が参加しており、日々の英語学習やコミュニケーション活動を磨き、深化させていくものとして期待している。		
中期目標振り返り		○中高教職員が6年間を見通して協働し、特色ある教育課程の編成・実施・評価・改善を行った。 ○「豊かなコミュニケーション能力」「論理的な思考力」「幅広い教養と社会性」「多様性を尊重する態度」の育成を目指し、総合的な学習の時間"EGG"の活動を充実させることができた。 ○目指す資質・能力の育成のため、各教科等で言語活動を充実させることができた。		

令和　6　年度

取組分野		取組目標	自己評価	総括
重点取組項目	「総合的な学習の時間」の取組の推進	○総合的な学習の時間"EGG"を教育課程の軸として探究活動に取り組み、異なる文化や背景、価値観をもつ人たちとも協働して、新たな価値を創造できる人材を育成する。 ○学校評価アンケート「総合的な学習の時間では、主体的に考え、行動し、課題解決できるようになった」と答える生徒が90%以上。	○総合的な学習"EGG"の時間を、EGGゼミ、EGG講座、EGG体験の3本柱を軸にして、各学年の年間計画に沿って探究的な学習に取り組むことができた。個人やグループ単位で、交流や対話を重ねることを通して、自ら設定した課題について視野を広げたり考えを深めたりすることができた。	A
	魅力ある教育の推進	○多様な学校行事や生徒会行事等を通して、生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばすことで、自主自立の精神と、豊かな人間性を育む。	○R6年度も多様な学校行事の中で、生徒一人ひとりが活躍する場を、それぞれの団体（クラス・部活動・委員会活動）の中で設けることができた。 ○それぞれの行事への準備等を通じ、集団の中でのリーダーシップの育成や、仲間と協力してひとつのことに取り組む姿勢の育成を行うことができた。 ○高校生と同じ行事に参加する中で、高校進学後のイメージを持ちながら企画・運営をする姿勢を育成できた。	A
	グローバル教育の推進	○英語集中研修、イングリッシュキャンプ、研修旅行などにおいて、英語でのコミュニケーションを集中的に行うことで、国際社会で活用できる語学力の育成を目指す。 ○さまざまな活動における協働的な学びを通して、これからの社会で求められるコミュニケーション能力を身に付け、国際社会で活躍できるグローバル人材の育成を目指す。	○EGG体験のひとつとして夏季休業期間に英語集中研修を計画し、外国の講師の方々と一緒に英語を使ってコミュニケーションを取ることができた。また、積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢を育むことができた。 ○1年生では、PAAやグループエンカウンター研修などを通して、新しい環境の中で、よりよい人間関係を築く上で大切なことを学ぶことができた。	A
人材育成の取組目標		○「思考力・判断力・表現力等」の育成に向けて、全教員が一層主体的に校内授業研修会や公開授業に参加し、教育期間や指導主事等からの指導・助言を受け、授業力の向上を図る。 ○横浜市人材育成指標に基づき、市教育委員会が実施する研修と連動させながらキャリアステージに応じた教師力の向上を図る。	○評価指標17「校内授業研修会や公開授業、授業参観等を通した授業改善が常に行われている。」に対して、教職員の78%が肯定的な回答をしている。昨年度より若干低い数値となったが、定期的に行われている研究授業や研修会等の取り組みが成果をあげていると考えられる。本校教育期間からの指導・助言を受ける機会を積極的に活用し、今後も学校全体として研鑽に励んでいることが必要である。	B
中期学校経営方針における13の取組分野	教育目標等の設定・実施	○教職員が誇りをもって働き、生徒が希望をもって意欲的に学ぶ学校づくりを一層推進する。 ○自主自立の精神を培い調和のとれた人間の育成を目指す。 ○教職員が人権意識を高くもち、一人ひとりの生徒に対して丁寧に支援を行う。	○評価指標17「学校の…保護者・生徒に教育目標や教育活動の取り組みについて理解されている」について教職員の84%以上が肯定的回答をしている。また評価指標10「自分（生徒）は学校の教育目標やそれを達成するための取組を理解している。」について生徒は84%以上、保護者の74%以上が肯定的回答をしている。生徒・保護者の更なる満足度の向上を図るべく、今後も学校目標の実現に向け教職員全体で取り組む必要がある。	B
	組織運営（働き方改革）教職員研修	○中学校と高等学校が連携し、組織を円滑かつ効率的に運営することで、業務の見直しを図りつつ、超過勤務の削減に対して意識的に取り組む。特に時間外在校等時間2ヶ月連続80時間越えの職員0を目指す。 ○横浜市人材育成指標に基づき、研修を有効に活用することで、常に学び続ける姿勢を持つ。	○評価指標18「中学校と高等学校が連携し全職員が円滑かつ効率的に学校運営に参画している。」に対しての教職員の肯定的回答は44.49%にとどまっている。中高教育一貫校として諸活動を充実したものにしていくために、教職員の意思疎通を今後も図っていく必要がある。 ○職員の多忙、負担軽減に向け業務内容の精選を行い、無理のない職場環境づくりをしていく必要がある。	C
	教育課程	○総合的な学習の時間"EGG"全体計画を策定し、生徒の主体的な学習を実現する。 ○国語・数学・英語は週5時間、また、土曜日を活用して、週33時間授業を実施する。 ○学習指導要領の趣旨を踏まえ、6年間で身に付ける資質・能力を共有し、指導と評価の改善を図る。	○総合的な学習の時間"EGG"全体計画を策定し、生徒の主体的な学習を実現する。 ○国語・数学・英語は週5時間、また、土曜日を活用して、週33時間授業を実施する。 ○学習指導要領の趣旨を踏まえ、6年間で身に付ける資質・能力を共有し、指導と評価の改善を図る。 ○中高一貫教育校として、6年間の確となる総合的な学習の時間"EGG"で「世界を幸せにする第一歩」という大目標から考えた生徒の課題探究能力や課題解決能力の育成を図った。 ○国語・数学・英語を週5時間行い、さらなる探究を目指した。 ○6年間の学習を計画的かつ継続的に行うため、研究授業や研究協議会を中高合同で行い、話し合いを行ってきた。さらなる改善を目指していく。	B
	教科指導	○学習指導要領の趣旨を踏まえ、特に学習評価の在り方についての理解を各教員が深め、指導と評価の一体化をさらに推進する。 ○各種テストの結果等から生徒の学習状況を把握し、授業改善を行う。 ○英語や数学等の補習を実施し、個々の生徒に対するきめ細かい指導の機会を設ける。	○各業務に関する研修会や校内授業研修会、授業参観等を通して授業改善を行ってきた。また、指導と評価の一体化について研修会を行った。 ○各種テストの分析会等を通して、授業改善に努めた。生徒の一層の学習意欲の喚起を促し、望ましい学習習慣を定着させる指導にいかしていく。 ○英語や数学等の補習を設定し、きめ細かい指導の機会を設け、生徒の基礎力定着を図る。	A
	特別活動部活動	○学級指導や行事指導を通して、生徒の責任感や自主性等を育成する。 ○生徒会行事や部活動を通して、生徒の望ましい人間関係を育成する。	○学校行事について、中高合同で実施する南高祭体育祭の部において、今年度大きな変化があった。中学生・高校生が協力して活動していく中での連絡・連携体制が整わず、運営に滞りが生じた。 ○中学生徒会活動として、年4回の全校会画の実施を通じ、企画・説明・運営の面で生徒の自主性を大きく成長させることができたと考える。	B
	生徒指導 教育相談（特別支援）	○礼儀指導や規範意識を育成する指導に取り組む。 ○生徒の円滑な人間関係づくりを支援し、いじめの防止に取り組む。 ○教育相談や各種調査を実施し、全職員による生徒理解を推進する。	○挨拶については、学級担任・教科担任・部活動顧問などそれぞれの立場から、生徒に声をかけ続けていくことが大切であり、また教員自らが積極的な挨拶を実践していくことが、生徒にとってもお手本になっている。教育相談やアンケートなどを効果的に活用することで、生徒理解が深まり、必要な支援を積極的に行うことが出来る。	B
	キャリア教育 進路指導	○キャリア教育全体計画を策定し、"EGG"等で社会の第一線で働く方々の講演や職場体験を行う。 ○特活指導内のキャリア教育の内容を系統立てて計画する。	○多様な専門分野の講師によるEGG必修講座を複数計画し、さまざまな課題について話を聞くことを通して、新たな視点を持ったり、視野を広げて考えを深めたりすることができた。 ○1年生では、夏季休業期間中に選択EGG講座を計画し、各自希望する講座を選択受講して、自分の興味を広げることができた。自分の進路について考えたりすることができた。	B
	保健指導 環境美化	○食育全体計画・学校保健計画・学校安全計画を策定し、食育・保健指導・安全指導等を実施する。	○港南区保健福祉センター栄養士による食育講座を2年生に行った。 ○日々の健康観察と健康相談では、生徒自らが考えられるよう対応と指導を行った。 ○自分と他者を大切にする心の教育の一環として、産科医と助産師による「いのちの教育」を3年に行った。 ○新1年生に限らず、全学年への登下校時の指導を継続的行い、交通安全指導とマナー指導に努めた。	B
	学校経理 施設・設備 情報の管理	○学校予算の効率的かつ適切な執行については、高等学校と連携し、学校事務職員だけではなく教職員全体で意識の向上を図る。 ○「横浜市における GIGAスクール構想」に基づき、1人1台端末の活用等、教育のICT化をさらに推進する。 ○学校情報の適切な管理、誤記載のない成績文書の作成を推進する。	○R6年度より財務会計システムが刷新され、今まで以上に適正な予算執行を進めていく必要性が高まった。そんな中で、高校事務室との連携を密に取り合い、物品購入や修繕の案件に優先順位をつけ、適切な予算執行に努めた。 ○GIGAスクール構想に基づき、アクセスポイントの増設工事や、教室用の電子黒板を導入し、一人ひとりに行き届く学習環境の整備に努めた。	A
	保護者・地域等との連携協力	○PTAによるクラス懇親会や中高グループ懇談会など、教職員と保護者の方との交流の機会を設ける。 ○体育祭や文化祭、合唱コンクールなど、多くの保護者に参観していただくことが出来た。 ○東永谷中学校ブロックの学家地連に参加し、地域の方と交流が出来た。	○PTAによるクラス懇親会や中高グループ懇談会を実施した。 ○体育祭や文化祭、合唱コンクールなど、多くの保護者に参観していただくことが出来た。 ○東永谷中ブロックの学家地連に参加し、地域の方と交流が出来た。	B
	危機管理	○防災マニュアルの整理、改善を行い、都度職員に周知徹底をする。 ○必要な物品の情報整理と補充を行う。 ○倉庫の定期的な点検作業を行い、職員間で情報共有を行う。 ○生徒会活動の中で、防災に対する取り組みを加える。生徒の防災に対する意識を向上させる。	○中高防災委員会の中で防災マニュアルを見直し、新たに中高共通の防災マニュアルを策定した。また、職員にも随時周知徹底をした。 ○防災に関する物品等の再検討を行い、計画的に更新できるよう購入を行った。また、R7年度以降への引き継ぎもおこなった。 ○中高合同防災委員会を実施し、年1回は倉庫の点検などを行った。 ○8月に防災教育を全校で行い、そのなかで生活保健委員が全校生徒向けの「防災」の発表を行った。	B
	学校に関する情報公開	○学校ホームページの適切な運用等、学校広報活動のさらなる充実を図る。 ○学校評価を活用した学校情報の公開を推進する。	毎月発行している学年だよりをHPに載せ、学校の様子を発信することができた。しかし日々の様子を公開する附属中日記については、あまり定期的に発信することができず、R7年度の課題としてあげられる。	B
	いじめへの対応	○職員によるいじめ防止研修を行い、いじめの認知、対応などのスキルアップを心掛ける。 ○定期的ないじめ防止アンケートに加えて、YPアセスメントと指導プログラムの実施で、安心・安全に暮らせる学級づくりを行い、いじめの未然防止に努める。 ○生徒によるいじめ防止の取り組みを継続し、生徒主体の発信を続ける。	○いじめ防止に関する教職員の共通理解を図り、適切な対応方法などのスキルアップにつとめた。 ○いじめ防止対策委員会を毎月1回以上開催し、組織的な対応を行った。 ○生活委員会生徒によるいじめ防止の取り組みを、各学年集会で発表した。	A
学校関係者評価書提言		高等学校教育が大きく変わろうとしている中で、これまでの知識習得型の教育から思考力・判断力・表現力等を重視したものへの変換が求められている。そこでは一人一人の生徒を主語とした学校教育の在り方が求められており、「主体的・対話的で深い学び」の授業改善が求められている。南高・附属中においても、現代的な教育課題に向けての転換を図ることが現実の課題であるが、幸いこれまでも中学校の総合的な学習の時間「EGG」、高等学校の総合的な探究な時間「TRY&ACT」が当初からの実施が図られてきた。今後は、中高一貫校として6年間を通した教育課程への取組が問われる。高校生の進路指導を含め、生徒の未来を創出する意味でも、これまで中高で分かれて行われてきた教育課程の一貫性を図ることが重要となる。それは、教科学習の先取りや前倒しではなく、「EGG」と「TRY&ACT」を中核とする教育課程によって実現が可能となる。		
学校関係者評価書提言に対する考え		令和6年度の重点取組項目である、「『総合的な探究の時間』の取組の推進」「魅力ある高校教育の推進」「グローバル教育の推進」の総括において、今年度もそれぞれ「A」となったことについて、教職員の日々の取組を評価していただいた。提言にあるように「主体的・対話的で深い学び」の授業改善ため、TRY＆ACTを軸とした探究活動において、中高の連携を意識しながら取組んでいきたい。今年度は国内でのグローバルリーダー研修に加え、カナダでの国際交流プログラムやニューヨークでのグローバルリーダー研修も実施し、日々の英語学習やコミュニケーション活動を磨き、深化させていくものとして期待している。		
中期目標振り返り		○中高一貫教育校として6年間を見通したカリキュラムの作成、中高の教職員の協働による教育活動に取り組んだ。 ○総合的な学習の時間"EGG"の取組を通じ、「豊かなコミュニケーション能力」「論理的な思考力」「幅広い教養と社会性」「多様性を尊重する態度」の伸長を目指し、国際社会で活躍できる人材の育成に努めた。 ○授業力向上に向けた取組について、公開授業を実施する教科を増やす等継続的に行った。		

令和　7　年度

取組分野		取組目標	自己評価	総括
重点取組項目	「総合的な学習の時間」の取組の推進	○総合的な学習の時間"EGG"を教育課程の軸として探究活動に取り組み、異なる文化や背景、価値観をもつ人たちとも協働して、新たな価値を創造できる人材を育成する。 ○学校評価アンケート「総合的な学習の時間では、主体的に考え、行動し、課題解決できるようになった」と答える生徒が90%以上。		
	魅力ある教育の推進	○多様な学校行事や生徒会行事等を通して、生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばすことで、自主自立の精神と、豊かな人間性を育む。		
	グローバル教育の推進	○英語集中研修、イングリッシュキャンプ、研修旅行などにおいて、英語でのコミュニケーションを集中的に行うことで、国際社会で活用できる語学力の育成を目指す。 ○さまざまな活動における協働的な学びを通して、これからの社会で求められるコミュニケーション能力を身に付け、国際社会で活躍できるグローバル人材の育成を目指す。		
人材育成の取組目標		○「思考力・判断力・表現力等」の育成に向けて、全教員が一層主体的に校内授業研修会や公開授業に参加し、教育期間や指導主事等からの指導・助言を受け、授業力の向上を図る。 ○横浜市人材育成指標に基づき、市教育委員会が実施する研修と連動させながらキャリアステージに応じた教師力の向上を図る。		
中期学校経営方針における13の取組分野	教育目標等の設定・実施	○教職員が誇りをもって働き、生徒が希望をもって意欲的に学ぶ学校づくりを一層推進する。 ○自主自立の精神を培い調和のとれた人間の育成を目指す。 ○教職員が人権意識を高くもち、一人ひとりの生徒に対して丁寧に支援を行う。		
	組織運営（働き方改革）教職員研修	○中学校と高等学校が連携し、組織を円滑かつ効率的に運営することで、業務の見直しを図りつつ、超過勤務の削減に対して意識的に取り組む。特に時間外在校等時間2ヶ月連続80時間越えの職員0を目指す。 ○横浜市人材育成指標に基づき、研修を有効に活用することで、常に学び続ける姿勢を持つ。		
	教育課程	○総合的な学習の時間"EGG"全体計画を策定し、生徒の主体的な学習を実現する。また、指導の効率化を図る。 ○国語・数学・英語は週5時間、また、土曜日を活用して、週33時間授業の実施を継続していく。 ○学習指導要領の趣旨を踏まえ、6年間で身に付ける資質・能力を中高全職員で共有し、指導と評価の改善を図る。		
	教科指導	○学習指導要領の趣旨を踏まえ、さらに学習評価の在り方についての理解を各教員が深め、指導と評価の一体化を推進する。 ○各種テストの結果等から生徒の学習状況を把握し、授業改善を続けていく。 ○英語や数学等の補習を実施し、個々の生徒に対するきめ細かい指導の機会を設ける。		
	特別活動部活動	○学習指導や行事指導を通して、生徒の責任感や自主性等を育成する。 ○生徒会行事や部活動を通して、生徒の望ましい人間関係を育成する。		
	生徒指導 教育相談（特別支援）	○礼儀指導や規範意識を育成する指導に取り組む。 ○生徒の円滑な人間関係づくりを支援し、いじめの防止に取り組む。 ○教育相談や各種調査を実施し、全職員による生徒理解を推進する。		
	キャリア教育 進路指導	○キャリア教育全体計画を策定し、"EGG"等で社会の第一線で働く方々の講演や体験活動を行う。 ○キャリア教育の内容を系統立てて計画する。		
	保健指導 環境美化	○食育全体計画・学校保健計画・学校安全計画を策定し、食育・保健指導・安全指導等を実施する。		
	学校経理 施設・設備 情報の管理	○学校予算の適正な執行については、今年度スムーズに進めることができなかった経理事務の一部を、過去の反省を生かしながら滞りなく進めていく。 ○教育のICT化に向けて、今年度情報教育を行うにあたり改善が必要となった場所を中心に、整備を進め、より質の高い教育を行う学習環境を構築していく。 ○学校情報の適切な管理、誤記載のない成績文書の作成を推進する。		
	保護者・地域等との連携協力	○PTAによるクラス懇親会や中高グループ懇談会など、教職員と保護者の方との交流の機会を設ける。 ○新入生保護者説明会や入学式・卒業式などに同窓会・後援会の方にも参加いただき、学校との交流の機会を設ける。 ○学校行事を保護者・地域に開放し、生徒の活動をみていただき機会を設ける。		
	危機管理	○防災マニュアルの整理、改善を行い、都度職員に周知徹底をする。 ○必要な物品の情報整理と補充を行う。 ○倉庫の定期的な点検作業を行い、職員間で情報共有を行う。 ○生徒会活動の中で、防災に対する取り組みを加える。生徒の防災に対する意識を向上させる。		
	学校に関する情報公開	○学校ホームページの適切な運用等、学校広報活動のさらなる充実を図る。 ○学校評価を活用した学校情報の公開を推進する。		
	いじめへの対応	○職員によるいじめ防止研修を行い、いじめの認知、対応などのスキルアップを心掛ける。 ○定期的ないじめ防止アンケートに加えて、YPアセスメントと指導プログラムの実施で、安心・安全に暮らせる学級づくりを行い、いじめの未然防止に努める。		
学校関係者評価書提言				
学校関係者評価書提言に対する考え				
中期目標振り返り				